

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念「共生」(共に生きる)のもと、ご利用者の立場に立ってケアが出来る様に取り組んでいます。また、パンフレットには事業所として「目配り・気配り・心配り」をして、馴染みのある地域で安全且つ穏やかに生活をして頂こうと理念に沿って取り組みをしています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有はなされています。 「共生」は簡単なようで難しく、職員側からすると「お世話をする」という意識が強く、中々「共に生きる」という所まで達していないのが現状です。お世話をして職員の自己満足で終わっているように思う所があり職員の意識改革が必要と感じています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	機関紙では法人の理念も記載したが、段々とご家族の記憶から薄れているように思われる。定期的に機関紙を発行出来たらいいが、発行できない状況にある。	○	面会に来られた時に、目につきやすい場所に法人理念を掲げるようにする。 また、ホームページを充実し、今後は情報提供していきたい。(法人内HPの担当者あり)
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご利用者と一緒に散歩に出かけた時など、ご近所の方と出会ったら職員から積極的に笑顔で挨拶するように努めています。また野菜を持ってきて下さる馴染みの方も出来、野菜を持って来られたらホームの中に入れてもらいお茶を一緒にし、世間話が気楽に出来る様に努めています。また野菜を頂いている地域の方に、ご利用者が余暇の時間に作られた作品をプレゼントなどをして交流ができるように検討しながら進めている。	○	限られた方だけで終わっているので、幅広く地域の方に立ち寄ってもらえるように積極的に地域の中に入っていきたい。(町内会の行事参加)
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	組費は年間支払っているが、地域のどの組にも入っていない。 地区の文化祭には作品展示や見学、地域の秋祭りの見学、地域の神社に初詣に出かけたりと地域で行事があったときなどは参加・交流出来る様にしている。	○	次年度の地域参加に向けて、地域の民生委員に中に入れてもらい組みに入れてもらえる様に働きかけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	とだ地域の高齢者と関わりを持ちたいと思いながら、地域が閉鎖的という土地柄、今年度は交流・関わりが出来ずに至った。傾聴ボランティアに来て頂いている方に(婦人会の会長)、必要であれば「認知症」の勉強会も開く旨、話している。声が掛かったら職員派遣の準備もしている。	○	次年度に向けて、とだの民生委員と協議中。只、受け入れてもらうのに時間がかかりそうである。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業計画にも挙げており、意識はして日々努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、取り組み状況など随時、報告をしている。また、委員より意見を聴かせてもらっている。地域とのからみやご利用者のサービスについて相談にもものってもらっている。只、ご家族は「施設」という感覚なので、グループホームの役割など理解をして頂くまでに必要以上の説明がある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上、変更があった時や分からない事などがあれば問い合わせをしている。また、ご利用者の調査や市からのアンケート調査なども持参し「グループホーム とだ」の名前を認識してもらえるように働きかけている。	○	市の主催で管理者会議や同業者の、情報交換会への参加を積極的にしている。管理者が主に参加しているが、今後は看護師・介護職員などにも参加してもらいたいと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員などの研修では、権利擁護や成年後見人制度について一通り講習を受けた。現段階においては対象者はいないが、必要に迫られたときに説明ができるよう、常に情報を収集していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	知識の差はあるが高齢者虐待防止法関連法については認識できているように思われる。知識の差をなくすため外部研修する機会があれば積極的に参加していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入・退去時には面談し、契約書・重要事項説明書に添い説明している。理解・納得のもと同意を得ている。入・退去後に疑問などが生じれば、その都度面談をし説明させて頂いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人で苦情を適切に解決する仕組みについて規定し、苦情を密室化せず円滑・円満な解決の促進や法人の信頼や適正性の確保を図っている。また法人に第三者委員を設置し、苦情解決に社会性や客観性を確保している。あわせて事業所に苦情受付担当者・苦情解決責任者を設置し苦情を申し出やすい環境を整備している。</p>	<p>○</p> <p>月に一度、市より派遣され介護相談員が2名来られている。ご利用者の要望・不安など生にご利用者の声を聴かれている。帰られる際には、総評として面談するが、同じ話の繰り返し(世間話)で終わることが大半で、サービスの向上に役だつ所までに至っていない。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年度末の行事の折に、事業報告も兼ねて職員異動の報告をしている。新規で採用された職員についても、その都度、ご家族参加の行事に随時、報告させて頂いている。日々の生活の様子とは別に、体調不良時や怪我などされていたら随時、ご家族には報告・連絡している。</p>	<p>○</p> <p>業務に追われ、機関紙が発行できていないので、ご利用者の生活の様子は、担当職員が書き請求書と一緒に郵送している。1月から開始したので、当面は続けて行きたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人で苦情を適切に解決する仕組みについて規定し、苦情を密室化せず円滑・円満な解決の促進や法人の信頼や適正性の確保を図っている。また法人に第三者委員を設置し、苦情解決に社会性や客観性を確保している。あわせて事業所に苦情受付担当者・苦情解決責任者を設置し苦情を申し出やすい環境を整備している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議や朝礼、普段の会話の中で職員の意見を聴くようにしている。積極的な意見が反映されない雰囲気があるので、雰囲気から改善していきたい。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者やご家族の要望に柔軟に対応できるため、介護職員の配置を介護保険法の配置基準より増やしてもらっているが、正規職員が少ない中、また管理者と計画作成担当者が兼務しているので十分な体制と言えないことがある。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年度、退職した職員があった。退職した職員に代わり馴染みの関係を築くのに少し時間を要したこともあったので、誰もが偏りなく関わり普段から馴染みの関係を築いていくことに努力していく必要がある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業計画で、年間の研修計画を立て実施している。職員会議において研修報告を取り入れたり、認知症の外部研修には積極的に参加ができるよう勤務の上で調整した。昨年度より今年度は、研修に参加できる機会を作れた。次年度は非正規職員も参加できるように調整していきたい。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年度より、推進会議の要望が反映され、市が主催で同業者との意見交換ができるような場を設けてもらっている。2ヶ月に一度の割合で集まりがあるが、有意義な時間が作られている。また、グループホーム連絡会主催の研修会にも積極的に参加させてもらい、情報交換をしサービスの質を向上に役立っている。</p>	<p>○</p> <p>管理者が優先に研修に参加している。次年度は介護職員も含め研修に参加してもらえるように調整していく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の仕事上での悩みや人間関係の悩みなど、ストレスを抱え込まないように日々の様子を観察し、普段と変わった様子があった時には個別に話しを聞くように努力している。また法人内でメンタルヘルスケアについても研修があったので、参加させて頂いた。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の勤務状況や実績については把握している。他職員の良いところを認め合いながら仕事をしているように思う。自己満足でケアが終わっている所もあるが、自己満足が自信になり、向上心が繋がっている様に感じられる。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用者の不安を聞かせて頂いた上で、説明をし受け止められるように努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族からの相談を聞かせて頂いた上で、説明をし受け止められるように努力している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接、ご利用者の状態に変化があった時など、看護師同席のもと、ご家族と面談をし、ご利用者が必要とするサービスなど話し合いを持ち、他のサービス利用も含め助言などしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、ご家族の協力も必要不可欠なものだという事を、繰り返し説明をし同意を得た上で入居に至る。入居後はご家族との情報交換を密にし、必要に応じて面会の依頼や、外泊の依頼などをしながら、環境に馴染めるように、ご本人のペースに合やす様に対応に努めている。それと同時に、職員も馴染みの関係を築けるよう「寄り添う介護」に徹している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の能力に差がある。「見守り支援」ではなく、お手伝い感覚で「お世話をする」という意識のある職員もいる。法人理念である「共に生きる」ということは難しいようで、職員の意識改革が必要と感じられる。	○	非正規職員も含め研修会の参加や勉強会など実施していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員の距離感をなくすように、月1度の行事の折には趣向を凝らし、ご利用者・ご家族・職員が一体となり餅つきをしたり、バーベキューや園堤で飯盒炊爨をしたりと、和気合い合いに実施できた。その中でご利用者の新たな一面を発見したり、今までの苦労をご家族から聞くことにより、ご本人やご家族を支えていく関係を築きつつある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々の生活において、必要に応じてご家族と連携をとっている。またご家族と積極的に関わりを持ち、ご本人とご家族の関係の話しを聞くことにより理解を深めている。面会時や行事・外泊依頼の際には職員がご家族とご利用者の橋渡しができるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解のもと住み慣れた自宅に出掛けたり、ご家族の協力を得て馴染みの場所へ外出依頼をしたりと関係が途切れないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者の中でも合う・合わないという関係があり、職員は利用者同士の関係を把握し、関係がよくないご利用者には中に入るなどをして利用者同士関わりが持てるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、ご家族にご利用者の近況を尋ねたり入所された施設まで、ご利用者と一緒に出掛けたりしてつきあいを大切にしようと心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日の出勤人数により対応が困難な時には、ご家族に相談したり協力を得ながら、ご本人優先で進めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会の折に、ご家族から情報を提供してもらえるように働きかけている。馴染みの環境で生活してもらえるように、自宅で見慣れているものを持ってきて欲しいと協力の依頼をするが、中々思うように進まないのが現実である。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別サービス計画書にて支援内容を明記しているが、業務に追われ把握しても実施出来ていないのが現状である。専門職として知識や技術などの質の向上が課題である。	○	非常勤職員も研修に参加、認知症とグループホームの役割の基礎知識を身につけてもらう。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要に応じて、ご家族・在宅のケアマネとも連携し、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて、本人・家族・職員との話し合いの場を設け、介護計画に反映できるように努力している。	○	管理者と計画作成担当者を兼務しているので行き届かない所があった。ご利用者のことは担当者に委ねたりしていきながら、両立ができるように図って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活の様子は、ケースに残しているが、職員が客観的に見た生活の様子であり、職員が深く関わった結果の検証・考察が出来ておらず、様式を含め今後の課題である。	○	ケース記録の様式を検討をしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者が重度になられ、グループホームでの生活が困難になってこられた方については、ご家族に説明をし納得して頂いた上で、特養の申し込み等を勧めたりしている。幸い当法人において特養も併設しており実績はないが協力体制は得られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会的であり、他者と関わりを持ちたいと思ってもらえるご利用者に対しては、石原地区の婦人会に依頼し、傾聴ボランティアに来て頂いたり、「ふれあいサロン」軽費老人ホーム主催のクラブ活動に参加させて頂いたりしている。	○	地元である戸田地域との交流が出来ていないので、次年度は戸田に根ざした生活出来る様に、戸田の民生委員とも連携し、地域の方と関わりが持てるように計画を練っている所である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて在宅ケアマネージャーとも相談し、ご本人に必要なサービスを模索し結果を出している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では必要性に迫られていないので、地域包括センターと情報交換や情報の提供には至っていない。今後、必要と思われたときに協力を求めていく。	○	必要に迫られたときには遅いので、事前に顔見知りになり馴染みの関係を築いていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関とは契約をしている。 ・定期的受診に対するご家族の負担も考慮し、グループホームでの生活上の重要度を説明し、理解を求め往診制度を取り入れた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医師への状態報告、指示を受け受診の際、必要に応じ紹介状を依頼している。 家族の理解を得ながら専門機関への紹介・受診をしている。	○	専門医の受診に際し、看護師も同行し日々の状態を的確に報告、今後の指示をうけている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師1名配置、及び看護師の資格を持つ介護職員を配置している。 身体面・精神的側面から観察を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	身体的状態変化に対し、家族への連絡を随時行っている。入院時にはサマリーを提供。入院後には状態・様子などを見に行ったり、ご家族と連絡を取り合い連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	内科的疾患症状悪化の可能性、症状悪化時の対策、情報の共有などに努めている。	○	個々の疾患もあり、治療の必要性により担当医師の判断のもと入院対応としている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	認知症状の状態、また身体的状態からの情報共有と多くのリスク回避に努力している。 医師の意見も聞き家族と面談しながら検討し他施設への入所申し込みも勧めている。	○	重度化、終末期に関しては、看護師1名体制の中、困難であり感染に対するリスクが増大する為、今後も十分な検討が必要。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族の意向を重視 面接時の立会い、日頃の情報提供をし転居時にはサマリーを提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩であるという意識を持って、言葉掛けたい王の徹底を図っている。プライバシー確保のため、居室の環境作りまた情報提供なども場所を変えて行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示として帰宅願望が多く、止めずに自己意志の支援・見守りを行っている。またご家族に協力の依頼を掛けている。	○ 出かけることが困難なご利用者が増え当ホーム内で1年を過ごす現状を介助車を利用して外に出かける支援に取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランに基づき個々の支援を行っているが意思表示の出来ない方が多く寄り添うケアを大切にしている。	○ 会議などで一人ひとりの支援を大事にしていく取り組みを行いつつあるが、意思表示の出来ない方の取り組みが出来ない現状である。ニーズを見出し支援に力を入れていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族には衣類などの調達を依頼し自分で選ぶことの出来る方には、アドバイスをし、出来ない方についてはおしゃれ心を取り入れた支援をしている。	○ 日常の服だけでなく時には晴れ晴れしい服、お化粧品をする機会を作って行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスを考えながらご利用者の食べ易い食事、時には希望を聞き楽しい食卓に努めている。出来る方には、一緒に調理また個々の出来る事を見出し、共にすることを心掛けている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・たばこなどは、ご家族の判断もあり実施していない。飲物・おやつは個々の好みを提供しているが、医師の指示を仰いでいる方もある。中には、買い物に行き購入される方もある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	プライバシーに配慮しながら昼夜共に個別の排泄時間によりトイレ誘導をしている。 尿取りパット使用者が声かけ促しにより、自立出来るようになった。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意思を確認し同意を得ながら入浴介助を行っている。拒否がある場合は、ご本人の気分を見ながら入浴のタイミングを考え支援している。	○	本人の希望を聞き取り、夜間での入浴対応を検討していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の休憩は一人ひとりの様子を見ながら、リズムを作れる様に支援している。夜間の不眠の場合が夜勤者が話を聞いたり、一緒にお茶を飲む等し眠れ易い様に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日ごとの行事や余暇活動を通して楽しみや気晴らしの支援をしている。その時々希望にあわせて、外出・散歩などをして気分転換を図っている。 個別にあわせて役割を決め参加してもらっている。(掃除・調理・買物・洗濯など)	○	ご家族から情報を得て、生活歴を全職員が把握し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方については、所持してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望により外出・散歩したり買い物に出かけている。 農作業を一緒にしている。	○	全職員が常に意識し一人ひとりの希望や状況に応じて戸外活動ができるよう支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事に遠出を行っているが、全員の希望に沿っている所までは出来ていない。	○	日常会話の中で本人の希望を聞き取っておき誕生行事などに反映させていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話については、何の制限もない。電話は自分で掛けられる方は公衆電話を使用し、掛けることが出来ない方は要望があれば、職員が繋いだり家族から公衆電話に掛けて頂いている。	○	手紙のやりとりは殆どないので、今後はその可能性も図っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会制限はない。いつでも居室やホールなどで自由に面会して頂いている。	○	家族以外の面会は殆ど見られないので、家族の意向も聞きながら進めていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。掲示板に禁止行為を書いたポスターを貼り、職員の自己啓発に努めている。また、身体拘束の研修会にも参加している。	○	朝のミーティングで必要に応じて、身体拘束になるのか・ならないのかという所を職員に伝えている。身体拘束にならないとおもっている事例もあったので、その都度職員には説明している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	極当たり前に日中の施錠は行っていない。その必要を感じない。 ご家族から日中の施錠を希望された方もおられたが、ご家族に説明し納得して頂いている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、情緒面・行動面に気をつけて状態観察を行い、随時所在確認をしている。夜間は2時間おきに安全確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理ができる方については、所持して頂いているが、見守り・確認は随時行っている。 異食や危険な行為をされる方はないが、危険と思われる物品は、ご利用者の目につきにくい所に保管するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハット報告書の早期提出を徹底し、職員共通認識とするように努めている。防災については、施設内研修や避難訓練などを通じて対応の統一と意識の徹底を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師の研修会には講義内容に救急救命士による心肺蘇生研修に参加した。	○	個々知識習得の為、他施設と連携しながら消防署に依頼し研修に参加ができるように働きかけたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	概ね2ヶ月に1回の避難訓練と、年1回消防署立会いで消火・避難訓練をしている。 火災通報装置などの点検も行っている。	○	本年度、運営推進会議において、地域代表の方との協力体制も得られつつある。次年度も引き続き、体制を努力していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご利用者の状態・経過観察をし随時、ご家族に状態報告の上、ご家族の意向も聞き今後のリスクについても説明しているようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル・全身状態観察に努めている。 担当医師への状態報告、指示を受けまた往診依頼もしている。 随時、ご家族に連絡説明なども行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報をケースに綴じ、参照する。 看護師管理にて1日分に仕分けしている。服薬時には、職員が見守り確実な服用を確認している。	○	疲労している夜勤者は朝の服薬は行わず、早出職員が対応している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事摂取状況、水分補給に努める。腹部状態・観察・便貯留時医師処方による下剤服用、反応便の確認をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯は毎食取り流水洗浄、口もゆすぎ食物残渣がないようにしている。自らできる方は毎食後、助言し実施して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・水分量については、チェック表に記入している。日々の摂取の仕方、ご家族からの情報などから、それぞれのご利用者に合わせた食事を提供するように心がけている。	○	栄養バランスを考慮した献立作り
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内研修を実施し各職員が予防の徹底を図っている。インフルエンザについては、全ご利用者と職員は予防接種を受けている。	○	インフルエンザ予防接種
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	予防の為の注意事項を目に付く所に掲示し徹底を図っている。食材は宅配業者を利用し新鮮な食品を提供している。ほぼ毎日宅配業者が配達してくれるので、冷蔵庫が一杯になることもなく食材の管理をしている。また毎月、赤痢菌の検査も実施、衛生管理に努めている。	○	業者を上手く利用し、よりよい新鮮なものを提供していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにはプランターを置き四季に応じて、ご利用者と一緒に花の植え替えをしている。冬季にはイルミネーションを付け、ご利用者や近隣の方に楽しんでもらっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	棟内の要所・要所に季節に応じた花を飾ったり、ディスプレイを施している。	○	ご利用者に合わせた生活感が感じられる空間づくりをしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子・ソファを設置、ホールでもソファを置いて、それぞれ落ち着ける場所で過ごしてもらえるように対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、ご本人が使い慣れたダンスや茶碗・箸など持参して頂く様に話をして持ってきてもらっている。また、ご本人にとって必要なものがあれば、その都度ご家族にご相談させて頂いたり協力依頼をして持ってきてもらっている。レイアウトについてもご家族やご本人と相談しながら進めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご利用者の状態や希望に応じて居室の温度調整に努めている。体調面の配慮から換気等を小まめにしている。空気が乾燥しないようご利用者の洗濯物を居室に干したりしている。	○	日中、ホールに除湿機を置いたり、窓を開放し空気の感想対策に努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にカーペットを敷かれているご利用者には、養生テープで貼ったり滑り止めシートを活用し躓き・転倒の予防をしている。また、身体機能の低下があるご利用者には、起き上がり・立ち上がりが出来易いようにベッドを変えている。20年度に物干しを新築。	○	20年度に物干し場を新築。物干し場に簡易手洗い所を設置。小さな洗濯物をご自分で洗って頂けるようにした。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々に合わせご利用者の習慣を大切にされた対応に努めている。常に個々の尊厳や自尊心を傷つけないような声掛け・目配り・気配り・心配りに努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外には畑・周りには花を植えるプランター・花壇を設け季節の花や野菜などご利用者と一緒に栽培・収穫している。また、玄関先にベンチを置き天気の良い日には日光浴をしたり、歌など歌ったりして楽しんでいる。	○	20年度に物干し場を新築。物干し場に簡易手洗い所を設置。小さな洗濯物をご自分で洗って頂けるようにした。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・地域の人達との交流。地域の高齢者の集まりに参加された方があったが、多数の参加が出来る様に働きかけをしたい。また、地域の方より、野菜などの提供が増えてきた。お礼として、ご利用者が作られた作品を差し上げた。この交流がもっと広がるように取り組みたい。

・地域に密着・定住しているため運営推進会議でのコミュニケーション作りに頑張り、代表者の助言・地域性など教えて頂き、また地域での行事にも出向く機会を与えて頂いている。

日々、ご利用者と散歩に出て、地域の方々と顔馴染みになるよう努力している。骨折などにより車椅子生活となっても、寝たきりによる合併症を起こさない為、常に積極的な移動介助、入浴介助を行っている。家族とのつながりを大切にして、ご家族も頑張り続け、自然な形の交流ができています。

・食事作りには、ご利用者の方に手伝って頂き、その中で会話も弾んでいる。畑仕事に熱心なご利用者には一緒に教えて貰いながら作業し、収穫したものを料理に使用している。

地域のボランティアの方とのつながりが増えた。

・職員や施設側の都合ではなく、ご利用者のペースに合わせた支援をすること、各職員が理解しており、ゆっくりとした時間の流れの中で「共に生活」を実践することで、表面化しにくいご利用者のニーズを感じとることができている。

・それぞれのご利用者に合わせて、その場・その場に応じた支援を心がけている。

各職員、得意分野を生かしたサービスを行っている。

・スタッフ間の申し送りや情報伝達を確実にを行うと共に、重要な事項については全てのスタッフに伝わる仕組みとなっている。

チームとしてケアを行う上での課題・解決するため、全職員で定期的に会議を開催し、自発的な意見交換をし発生した事故などに係る報告書や記録を作成し、事故の再発防止に役立っている。

・日々の業務の中で、お互いが「目配り・気配り・心配り」をしながら対応していく。